

研究ノート

中村嘉寿と日本人学生使節のメキシコ訪問¹

La visita de estudiantes japoneses de Kaju Nakamura

メキシコ国立自治大学

Universidad Nacional Autónoma de México

カルロス・ウスカンガ

Carlos Uscanga

訳：小池 康弘、リノ・マルタ

Traducción: Yasuhiro Koike and Rino Maruta

はじめに

日墨間の通商・航海・友好条約が 1888 年 11 月 30 日に調印された。この条約は、双方の外交関係を樹立しただけでなく、学生の移動に門戸を開き、知識人同士の出会いや、一般的には、学術や文化面での協力を実現した。

1920 年代には、学術的交流の多くの事例や日本人学生の代表団の訪問事例がみられた。これには、少なくとも 2 つの出来事の影響がある。すなわち、1888 年条約の再交渉と、1924 年に新たに締結された、日墨の教育と文化の相互交流を盛り込んだ貿易と航海条約である。他方、日本は明治時代よりヨーロッパやアメリカ合衆国への若者派遣を積極的に行っていた。それは大学への留学だけではなく、他の国々の学生と接触するための短期訪問を促進するものでもあった。

このような背景からみても、中村嘉寿（なかむらかじゅ）は、海外において日本の若者の“外遊”の偉大なプロモーターであった。彼は、鹿児島出身で、アメリカのニューヨークの大学で勉強し、その後、日本の衆議院で副議長を務めた。また、オリエンタル文化のサマーカレッジの創立を通して、頻繁な文化交流を促進し、学生の海外訪問を企画した。

メキシコ駐在の日本の外交官たちは、中村がメキシコに到着する前に、「彼らのメキシコ訪問の目的は、日本の新世代の人々が外国について本当の知識を得ることであり、そのことは、彼らが異国の地の特徴や人となりについての理解を促すことに繋がる。日本人たちが外に出ることで、外国を理解し、現実を理解することにもつながる」と述べていた。²

在エルパソ・メキシコ領事館によれば、1931 年の 8 月初めに、中村は、彼の息子（11 歳）と 5 人の学生、すなわち早稲田大学の学生である八村信二（21 歳）、Tsutomu Obana（注：原典ママ）（30 歳）、Moji 高校の Saburo Miyauchi（16 歳）、慶応大学の Tasuku Tanaka（21 歳）、Kawabe 高校の Yoshiyuki Yamashita（19 歳）と、メキシコ国境を越えてシウダー・フアレスに入り、そこでアンヘル・ウルティア、日

本への旅から帰国したラウル・カルボ、およびセバスティアン・ヘイレスといった学生たちのほか、地元当局者や日本人コミュニティのメンバーたちの歓迎を受けた。このとき国会議員である中村は、以下のように感謝の意を示している。

「私はメキシコの人々が私たちを受け入れてくれた熱意に非常に感謝しています。まるで自分の故郷にいるように感じます。メキシコ大統領ならびに下院の革命会派からも挨拶を送っていただいたことを知り感動しました。メキシコの若者たちが最近我が国を訪問したことから、友好の絆を構築することが始まったことを大変うれしく思います。メキシコの人々に、そして Manuel Aradillas 議員、Juan de Dios Bátiz 議員、そして特に、両国の関係をより親密にするために尽力された Lázaro Cárdenas 将軍に、どうぞよろしくお伝えください。」

レセプションが終わると、代表団はメキシコシティに向け汽車に乗り、1931 年 8 月 10 日にコロニア駅に到着した。コロニア駅では、在メキシコ日本公使館職員、国民革命党（PNR）に所属する Manuel Aradillas 議員、文部省の技術教育課長で中村嘉寿のメキシコ訪問を企画する特別委員会のメンバーであった Juan de Dios Bátiz が彼らを迎えた。メキシコ滞在中、ミチョアカン、ゲレロ、イダルゴ、プエブラ、モレロスなどの地方訪問も行なった。モレロスでは、同月 29 日に、Vicente Estrada Cajigal 州知事およびクエルナバカ市当局者との面会も果たした。

最初の交流接触

19 世紀の終わり、すなわち 1888 年の条約調印から 5 年ほど経過した 1894 年、おそらくは最初の日本人留学生と思われる甘利造次（あまりぞうじ）がメキシコのプエブラ市に到着し、メキシコ・メゾチスト学院で学んだ。甘利は日本外務省の留学プログラムの試験に合格しており、数か月後には在メキシコ日本公使館で参事官として働き始め、その後は外交官として中南米各国に派遣された。

1 Brenda Limón Jiménez 氏と Rogelio Vargas Rodríguez 氏に本稿のための調査に協力してくれたことに感謝の意を述べたい。

2 “La Delegación Nipona llega hoy a México”. *El Nacional*, 10 de agosto de 1931, p.2



氏次造利甘

写真1 Zoji Amari

出典：「移民の国南米に日本商品の大市场」大阪毎日新聞，1931年3月11日

他方、初めてメキシコ人が日本に留学したのは、記録によればメキシコ革命後の体制が成立した1920年代からである。そのころは、留学生のための公的な機関が整備されていなかったため、実質的に受け入れ側の人々の善意によるものであった。その中の一人が、衆議院議員・鈴木梅四郎である。彼は1923年にメキシコを訪問し、Álvaro Obregón 大統領および農林開発省のRamón P. de Negri 大臣(1923年11月20日に国立農業学校のチャピンゴ農園への移転を推進した人物)と面会し、学生の交流を提案した。メキシコ日本協会報によると、メキシコ人留学生たちは1926年6月10日に横浜に到着している。Samuel Solís Sánchez と José García Martínez が鈴木氏本人の出迎えを受け、日本の水産講習所で学んだ。Solís は灌漑システムを専門とし、1930年5月には月刊誌『メキシコの灌漑』の第1号に論文を掲載している。

これらの交流がきっかけとなり、1931年の初めにはメキシコの大学関係者一行が日本を訪問することとなった。哲文学部教授だった Adalberto García de Mendoza Hernández は、Mario Aoyama, Horacio Espinosa Vela, Antonio Lomeli,

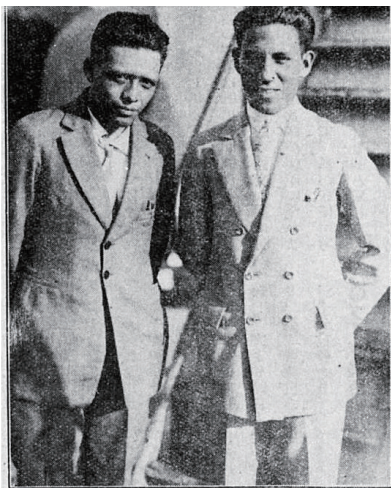


写真2 Samuel Solís Sánchez と José García Martínez

出典：Boletín de la Sociedad México-Japonesa, 30 de marzo de 1927 p. 436

Ulises Espinosa Vela, Raúl Calvo y Ángel Urrutia, Fernando de la Llave らと共に、いくつかの日本の大学を訪問した。García de Mendoza 教授は、明治大学、東京帝国大学、早稲田大学で講演を行い、日本側の学術関係者たちと繋がりを持った³。

衆議院議員である中村嘉寿はメキシコ代表団と会合したが、おそらくそれは日墨協会の代表でもあった海軍中将・森山慶三郎が仲介した可能性が高い。それとともに、この会合が中村嘉寿のメキシコ訪問を促したと推測される。

訪問の発表を前に、連邦政府は日本人学生訪問団の一か月間の滞在(1931年8月10日～9月10日まで)をコーディネートする委員会を任命した。そのメンバーは、Juan de Dios Batíz, Julio Jiménez Rueda, Camilo Carrancá y Trujillo および本部長 Ángel Meza Martínez 大統領府補佐官(現在の大統領警護隊 EMP)であった。委員会の目的は、日本人訪問者たちの活動をコーディネートし、後方支援を行うことだった。

彼らのスケジュールは幅広く中身の濃いものだった。メキシコシティでは、独立記念塔への表敬、高等教育機関への訪問、Excelsior や El Universal など新聞社への訪問などが行なわれた。



写真3 中村嘉寿

出典：https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Kaju_nakamura.jpg

Pascual Ortiz Rubio 大統領はチャプルテペック城に日本代表団を受け入れ、彼らの快適なメキシコ滞在を願うとともに、この滞在が日墨の友情を再確認することにつながるよう望むと述べた。また、Genaro Estrada 外務大臣も中村ら一行を迎え入れ、非公式かつ“相互に友好に満ちた⁴”対話が行なわれた。

Luis Felipe Martínez Mezquita が率いる全国学生連合と、Efraín Brito Rosado を議長とする大学学生連合は、法学社会科学部のセレモニー・ホールで日本人訪問者たちの歓迎会を企画した。その後、メキシコ国立自治大学の学長である

3 Carlos Uscanga, México y Japón en los años treinta: Los avatares del intercambio académico", *Relaciones Internacionales*, núm. 110, Mayo-Agosto de 2011, pp. 162-164.

4 "Visitó al presidente y al Srío. De Relaciones la misión de los estudiantes que vino de Japón", *Excelsior*, 14v de agosto de 1931, p.3



写真4 Genaro Estrada と中村嘉寿

出典：Fototeca Nacional del Instituto Nacional de Antropología e Historia, Archivo Casasola, Número de Inventario: 14776



写真5 中村嘉寿と日本人学生たち

出典：Fototeca Nacional del Instituto Nacional de Antropología e Historia, Archivo Casasola, Número de Inventario: 99810

Ignacio García Téllez が、大学評議会の公式会合において彼らを迎えた。中村は、何世紀もの間、両国の間に存在してきた友好関係を指摘し、それを、何か不思議で運命的なものとして表現した。また、学生同士の関係を架け橋として、そこから更に友情を深めていく必要があると語った⁵。つまり「勤勉な若者たちが、日墨間の精神的な架け橋になる」と述べ⁶、演説の最後にこう指摘した。

「あなたたちの言語であるスペイン語で話せないのは残念なことであるが、私は、英語で話すことよりも、自分の言葉である日本語で話すことを選んだ。メキシコににいるという状況の中で英語で話すことは正しくないからである。日本はメキシコに手を差し伸べ、メキシコは日本に対して心から対応している⁷」。

他方、大学生連合の Brito 議長も雄弁な演説を行った。日本が 1904 年から 1905 年の日露戦争において世界にその存在を示したことに触れ、メキシコはその行動を学ぶ必要があると述べ、次のように演説を締めくくった。

「私は、日本の大学の若者たちの代表であるあなた方が、メキシコが一部の人が言っているような悪い国ではないことを世界に述べ伝えるための大使になってほしいと思っている。メキシコの若者たちもそれを信じ、そう遠くない将来、その存在を世界に示すことができるようになることを期待している」⁸。

大学の教授陣からは、Enrique González Aparicio が、中村らの訪問はメキシコ人たちが “gérmenes de Asia”（訳者注：

ここでは、アジアの魂と訳す）を持っていることを思い起こさせ、西洋化しているメキシコにとって重要な意味を持っていると述べた⁹。

彼らはメキシコ国立農業学校を訪問し、J. Manuel Corona 学長が出迎え、同窓会が公式歓迎会を開き、José Saldívar 代表が歓迎の挨拶を行った¹⁰。

また、芸術工芸学校、機械電気の学校などが日本の学生のためにダンスを企画するなどして歓迎の輪に加わった。

イダルゴ州パチューカへの訪問中に、Bartolomé Vargas Lugo 州知事と同地域の軍司令官である Antonio Guerrero 将軍が迎え入れてくれた。新しい幹線道路を見てもうするため、Zacualtipán 訪問が企画され、Compañía Real del Monte や Pachuca にも行った。バルトロメ・メディーナ劇場でのリサイタルや科学人文学院 (Instituto Científico y Literario) による舞踊も披露された。その中で、Tsutomu Obana（注：原典ママ）の次のコメントが興味深い。

「メキシコ人女性には、外見、色、習慣など、日本人女性に似たものがある。日本人は結婚について伝統に従わなければならないが、メキシコ人は妻を選ぶ自由があり幸せだと思う¹¹」。

プエブラの市に滞在中、Leónides Andrew Almazán 市長が中村の一行を受け入れた。メキシコでは、闘牛祭、美術館、教育機関の訪問、ロレートとグアダルーペの砦をはじめとした様々なイベントへの訪問を企画した。最後には、企業家 Miguel Abed がプエブラと日本の学生が交流できる宴会

5 “Recepción Universitaria en Honor del delegado español. También se hizo objeto de distinciones a los estudiantes japoneses que actualmente están en México”, *El Nacional*, 15 de agosto de 1931, p.5

6 “Los Estudiantes japoneses recibidos por la Universidad”, *El Universal*, 15 de agosto de 1931, p.2

7 “Un puente espiritual tienden los educandos de México y el Japón”, *Excelsior*, 15 de agosto de 1931, p.4

8 “Recepción Universitaria en Honor del delegado español. También se hizo objeto de distinciones a los estudiantes japoneses que actualmente están en México”, Op. Cit.

9 “Los Estudiantes japoneses recibidos por la Universidad”, Op. Cit.

10 “Los Estudiantes del Japón estuvieron en Chapingo, Mex”, *El Nacional* 22 de agosto de 1931, p.8

11 “Escolares japoneses que visitan a Pachuca”, *Excelsior*, 17 de agosto de 1931, p. 14

を企画した¹²。

他にも、チルパンシンゴやアカプルコを訪問した。前者では、市長 Adrián Castrejón Castrejón が出迎え、日本からの特別な招待者たちを舞踊でもてなした。

中村とその代表団が Federico Linos 港に到着したとき、商工会議所と私立や公立の様々な学校を代表した方々が歓迎してくれた。また、ここで昼食もとった。報道陣によると、日本人の学生たちは、歓迎会の際に「まだ木製ガレオンがまだ使われていた時代、1612年に初めて日本からの特使（使節団）がメキシコに來たことを記念するこの港に建てられた日墨の友好関係の記念碑には大きな意味がある」¹³と指摘した。

実際にはその後に Hasekura Rokuemon Tsunenaga. の銅像が置かれた。

クエルナバカの日本人学生たち

ゲレロ州への訪問の後、8月29日に日本人学生たちは、クエルナバカ市に到着した。そのニュースは、到着の何日も前から地元の報道陣がカバーしていた。モレロス州の公的な広報機関紙である“Nuevo Morelos”紙は、「はるか遠くの地からメキシコを尋ねてきた」と賓客という意味で記事を掲載していた。

これに先立つメキシコシティへの訪問のように、他の州への訪問においては在メキシコ日本公使館の臨時代理公使 Takeshi Yanagisawa¹⁴と、彼の先輩でもある駐在武官 Saburo Isoda が同行し、代表団のエスコート役として Ángel Mesa Martínez 大尉と全国学生連合のメンバー José Vallejo Novelo が同行した。

彼らは Vicente Estrada Cajigal 知事との会合に先立ち、市庁舎での式典において賓客として宣言された。その後、州議会議事堂を表敬訪問し、議会常任委員会のメンバーたちの歓迎を受けた。そこでは José Urbán Aguirre y Pérez 議員が演説を行ない、メキシコとモレロ州の人々が、日本を「勤勉で、教養があり、愛国的」な国として親日感を抱いていることを強調した。

中村はメキシコに到着後に受けてきたおもてなしに感謝すると英語で答えた。

学生 Alfredo B. Cuellar の通訳によると、彼はメキシコ人と日本人は、見た目も精神も似たところがある。と述べている。最後に中村は、メキシコの学生たちが日本に來る際には、一日本人はおとなしい性格ではあるが、メキシコの地で自分たちが受けた歓迎と同じような熱意をもって迎えると語った¹⁵。

常任委員会に先立ち、中村は、モレロス議会に対する日本の立法府からの挨拶を伝えた。その後、最高裁長官の Juan F. Vereo Guzmán を訪問し、両国間の絆を深めるため挨拶の交



写真6 Vicente Estrada Cajigal と José Urbán Aguirre y Pérez
出典：Fototeca Nacional del Instituto Nacional de Antropología e Historia, Archivo Casasola, Número de Inventario: 14763



写真7 Bellavista ホテル (モレロス州クエルナバカ)
出典：Fototeca Nacional del Instituto Nacional de Antropología e Historia, Archivo Casasola, Número de Inventario: 191490

換が行なわれた。

日本の学生たちには、クエルナバカを一回りした後、Bellavista ホテルに到着した。そこで Estrada Cajigal 知事による歓迎会が開かれ、同知事と中村が日墨の国民間の友情の重要性について述べた。出発の前に一向はモレロス劇場に立ち寄り、“una ojeada a través de Morelos” というショーを観賞した。

大統領特別委員会で報告書の作成を担当していた Pascual Ortiz Orozco は、日本人訪問者たちの様々な活動をその中に記載した。実現した活動のすべては、メキシコにとって予算的に高いものではなかったことを強調し、それらの活動がとても有意義なものであり、日本からの特別な招待者たちに相応しいもてなしができたとして述べている。同報告書は、

12 Visita del Ministro y de los estudiantes del Japón a Puebla”, *El Universal*, 23 de agosto de 1931, p.4

13 “Agasajos a los Nipones”, *El Universal*, 25 de agosto de 1931, p.8

14 “Los Estudiantes japoneses acompañados del excmo. Ministro Nipón, nos visitan” *Morelos Nuevo*, Sección Primera, 30 de agosto de 1931, p.1

15 Ibid.

これらの活動が、在京の外交官や在メキシコの日本の組織、さらに全国学生連合、大学生連合などが緊密に協力して実現したことでありとも強調し、以下のように述べている。

「在メキシコ日本人外交官や、メキシコシティにある様々な日本の組織の関係者が多くのプログラムに参加してくれた。日本側の使節が学生によって構成されていることから、メキシコの学生達の交流参加が我々にとっての重要な目標であったが、この点においても評価できる」。¹⁶

実際、各訪問先の努力は高く評価されるものであった。ミチョアカンを例に挙げると、国家革命党の党首 Lázaro Cárdenas と農林開発大臣 Manuel Pérez Treviño は、一行のモレリアへの移動に必要な資金を工面した。ミチョアカンの滞在中には、サモラ市でガラ・コンサートが企画され、報道陣は「コンサートには、メキシコ人のアーティストの出演と、日本帝国からの重要な人々の参加があった」¹⁷ と伝えた。さらに、ウルアパンやパズクアロのような他の市への訪問では、Efraín Buenrostro 事務局長 や Jesús Romero Flores 教育部長、その他にさまざまな当局者たちに接待された。

さらに興味深いのは、中村代表団の行動が、多くのメキシコの報道関係者によりカバーされていたことである。例えば、El Universal 紙は、Rafael Heliodoro Valle 記者と José Barros Sierra 記者にミチョアカンでの活動をカバーさせ、San Nicolás de Hidalgo 大学、産業技術男子学校 “Álvaro Obregón” などの教育機関、さらには一行がコンサートを聴いた国立芸術院¹⁸ 訪問などの活動も報じられた。

最終報告書では、一行の中の二人の学生が、一人はチャピンゴ農業学校に入るため、もう一人はモンテレイの工科大学に入るため、メキシコに残ることになった旨を記している。この二人が誰なのかは明らかにされていないが、おそらく代表団の中で最も年下だった Saburo Miyauchi と Yoshiyuki Yamashita である可能性がある。

末尾では、中村嘉寿および日本人の学生たちが、教育関係の組合とも接触し、どのようにメキシコの教育分野での進歩について直接観察することができたかについて述べているほか、今回の訪問が、両国民のメンタリティの違いにも関わらず両国のつながりを強化する上で実利的な要素の一つになったと評価している。こうして、Juan de Dios Bátiz, Julio Jiménez Rueda, Camilo Carrancá y Trujillo および Ángel Meza Martínez によって作成されたレポートは終わっている。

1931 年 9 月 10 日、中村嘉寿と残りの学生の代表団は、横浜に向け出港した。メキシコの報道陣によって公開された別れの言葉には、以下のようなことが述べられている。

「日本の学生使節団により構成されたグループは小さなものであり、私たちのメキシコ滞在はわずか 1 ヶ月の短いも

のでした。それでも、私たちがメキシコから得られた事には大きなものがあります。メキシコの人々が私たちに与えた数々の歓迎の記憶は、私たちの心のなかで永遠に残り続けます。メキシコ人と交流の機会が増えるほど、人類はすべて同じであると感じることができます。メキシコの歴史を勉強すればするほど、その古代文明への賞賛は増していきます。」¹⁹

間違いなく、この訪問の収穫は、日墨の若者たちが交流を深めることによって両国の知見を広げる努力が表明されたことであった。両国の深いナショナリズムをもって友情の絆を証しし、中村と学生の代表団は両国民の類似点を探そうと努めた。例えば、共有する歴史、人種的な起源を含めメキシコ人と日本人の外見の類似性などである。今日ではこうした議論をすることなどないだろうが、戦間期の時代には、メキシコと日本の両国のインテリや役人たちがこうした議論を繰り返していたのである。

モレロスは頻繁に訪問された場所であった。メキシコシティから距離的に近く、気候や自然にも恵まれ、人々は日本からの訪問者たちを称賛し、肥沃な土地を持つメキシコの一部として様々な書物の中に描かれている。中村自身も、メキシコ訪問について 1935 年に『世界を歩く』と題する書物を刊行し、その中でメキシコでの経験を記している。中村は、1965 年に死去するまで、日本の若者たちが海外に出かけることを促進する努力を続けた。

16 “Los estudiantes japoneses en México”, *Universidad Nacional de México*, Tomo II, Núm. 11, UNAM 1 septiembre de 1931, p. 531.

17 “Hoy Gran Concierto Extraordinario por la Famosa”, *El Nacional*, 14 de agosto de 1931, p. 6

18 “Cordial Recepción de la C. de Morelia a los japoneses”, *El Universal*, 6 de septiembre de 1931, p.4

19 “Despedida del Sr. Nakamura”, *El Universal*, 10 de septiembre de 1931, p.7